

サマリア人 知っておきたいキリスト教のことば (82)

サマリアは、ガリラヤとユダヤの間にあった町です。紀元前 870 年頃には、北イスラエル王国の首都として栄えていました。

しかし前 721 年の北イスラエル王国滅亡後に、サマリアには異民族が多く侵入してきます。彼らはサマリアに残っていたユダヤ人と婚姻関係を結び、サマリア人と呼ばれる民族が生まれました。ユダヤ人は自分たちの血統をととても大切にしており、異民族との婚姻は忌むべきものだと考えていました。そのためユダヤ人は、サマリア人を軽蔑するようになります。



その後ユダヤ人がエルサレム神殿を再建するときに、サマリア人はその協力を申し出るのですが、ユダヤ人の預言者エズラは拒否しました。サマリア人を同胞として受け入れることができなかったのです。

そしてサマリア人は、ユダヤ人とは違う形で礼拝をおこなうようになります。ゲリジム山に神殿を建て、サマリア五書を聖典とします。サマリア五書はモーセ五書（旧約聖書の創世記から申命記まで）とほぼ同じ内容ですが、律法の記念碑を建てる場所がエバル山ではなくゲリジム山になり、犠牲をささげる場所がエルサレムではなくシケムになるという違いがあります。

新約の時代になっても、ユダヤ人はサマリア人を忌み嫌っていました。ユダヤ人はガリラヤからエルサレムに向かうのに、遠回りになってもサマリアを通りませんでした。また「ユダヤ人はサマリア人とは交際しない（ヨハネ 4:9）」という記述もあります。

しかし福音書は善きサマリア人のたとえを伝え、サマリアの女性と会話するイエス様の姿も描きます。イエス様は、憎しみの壁を取り払われたのです。

次回は「山上の説教」です。お楽しみに。